

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

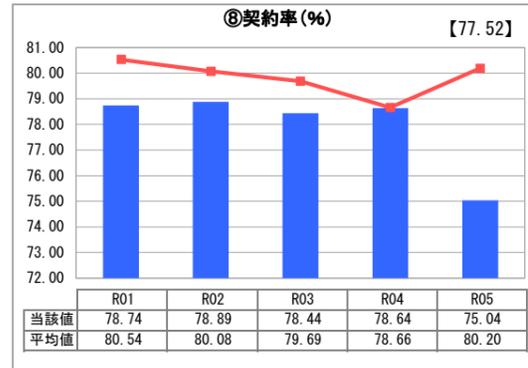
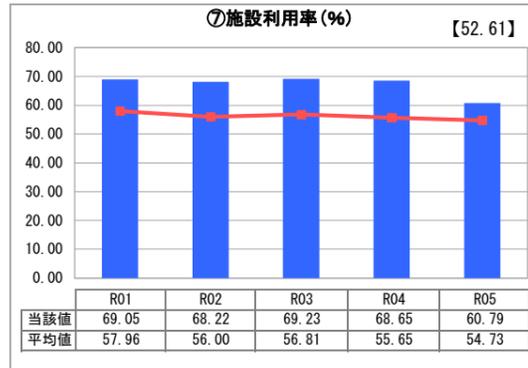
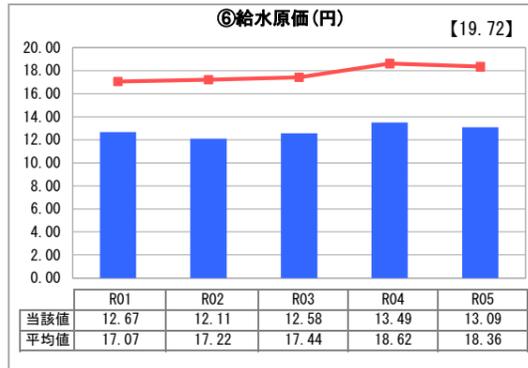
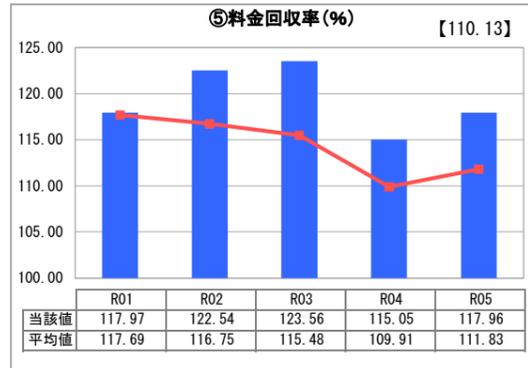
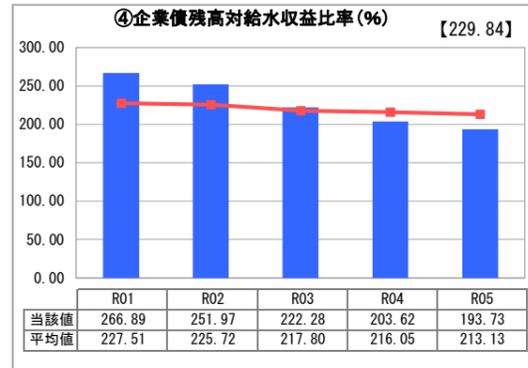
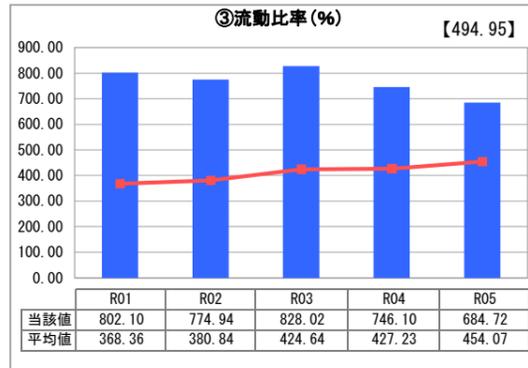
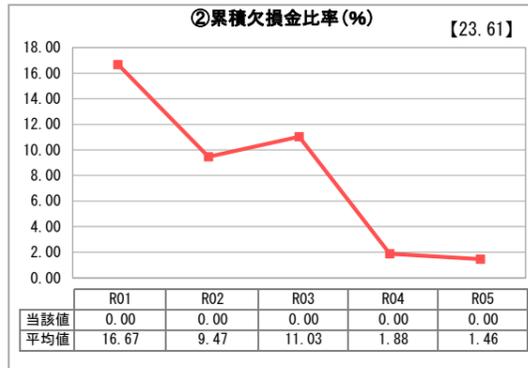
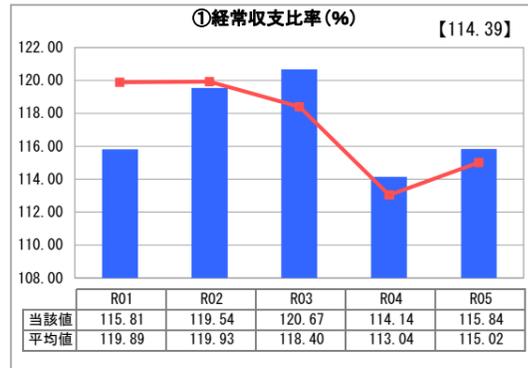
秋田県

【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 200,000	類似団体区分 大規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 121,574
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 89.3	給水先事業所数 29	契約水量(m ³ /日) 150,070	管理者の情報 非設置	

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○経常収支比率
給水収益は前年度より減少した一方で、維持修繕費が抑えられたことにより経常収支比率は上昇した。基準である100%を上回っており、健全性に問題はない。

○流動比率
給水収益の減少や動力費の増加により、現金預金残高が減少したことから流動比率は低下したものの100%を大きく上回っており、短期的な支払能力に問題はない。

○企業債残高対給水収益比率
近年は新たな企業債を発行しておらず、既存の企業債の償還が進んでいることから年々減少している。

○料金回収率
供給単価は前年度から変わらなかった一方で、給水原価が維持修繕費等の減少に伴って下降したことにより、料金回収率は上昇した。全国平均を上回っており、健全性に問題はない。

○施設利用率
契約水量の減量があったことから、前年よりも下降したものの全国平均を上回っており、健全性に問題はない。

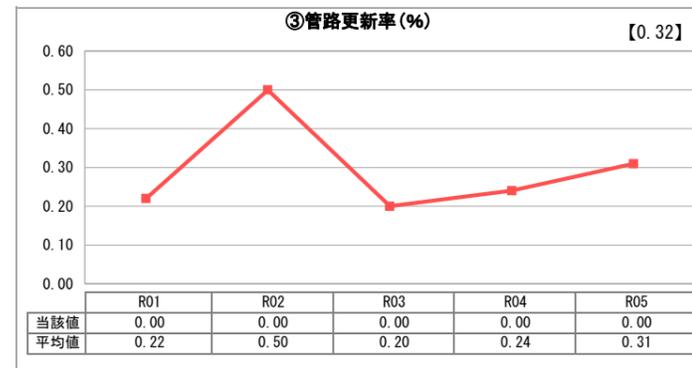
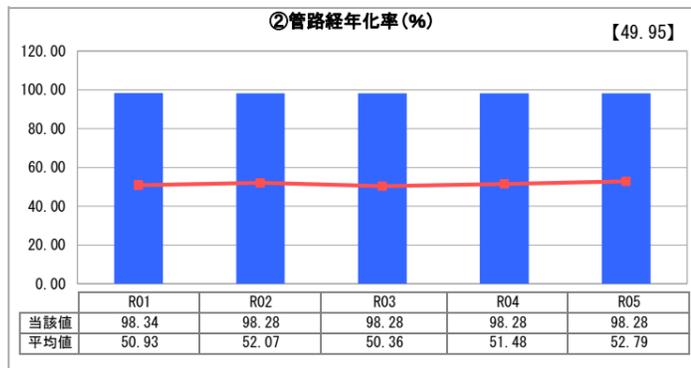
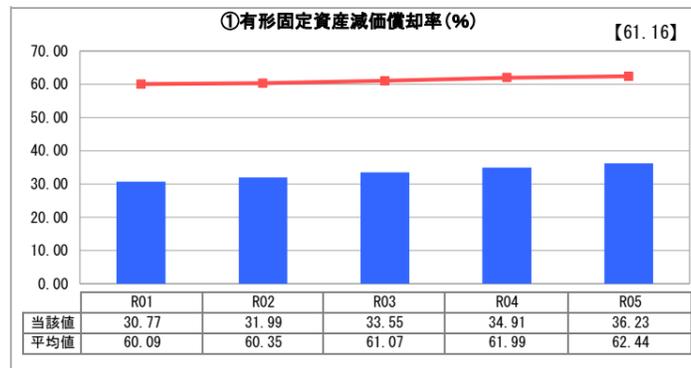
○契約率
契約水量の減量があったことから、前年よりも下降した。新規ユーザーの開拓に努めるとともに、用水需要に見合ったダウンサイジングなども検討していく。

2. 老朽化の状況について

○有形固定資産減価償却率
全国平均と比較し、法定耐用年数に近い資産が少ない(管路を除く)。

○管路経年率、管路更新率
全国平均と比較し、法定耐用年数を超えた管路の割合が高い。
現在、第二期改良計画(平成21年度～令和7年度)を進めており、送水施設の改良等を行っている。
第三期以降の計画は構想段階であり、アセットマネジメント計画(令和5年度策定)に基づいた見直しを進めている。

2. 老朽化の状況



全体総括

収益面ではユーザーの事業縮小や撤退による給水収益の減少、費用面では電気料金の高騰に伴う動力費の増加など、今後厳しい経営状況が見込まれる。
アセットマネジメント計画に基づいた改良計画の見直しを進めるとともに、給水料金の適正化や用水需要に見合ったダウンサイジングなどで経営の健全化を図る。